かわら版　事務所通信　VOL-191（2026/01）
編集責任者：佐藤寿志　0100

税理士のひとりごと

税理士の佐藤です。新年、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

昨年末の 12 月 28 日、小樽の朝里川温泉スキー場で「移動用のエスカレーターに子どもが挟まれた」と母親から消防に通報があり、

5 歳のお子さんが意識不明の重体で病院に搬送されましたが、その後死亡が確認されました。詳細はニュース等でご確認下さい。

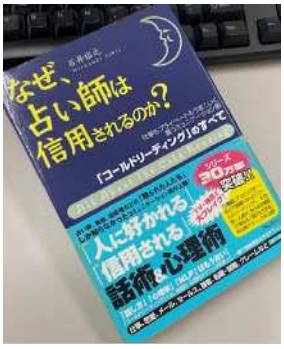
この悲しい事故のポイントは 2 つ、①エスカレーターは物が挟まった際には非常停止装置が作動する設計だが、今回は自動停止しなかった。②過去にも転倒事故があり危険という認識（会社談）はあったが監視員を置かず、母親自身が手動の停止ボタンを操作し停止させた。

別件で過去に紹介済みの事故ですが小樽がらみのニュースでは、ゴミ収集車が子供を死亡させ、内部告発により産廃法違反が発覚し会社は破綻しました。今回の事故を起こした運営会社はスキー場のほかにゴルフ場、ホテル・貸別荘等を買収（M&A）により取得した外国人（海外在住）が経営者です。この事件をきっかけに何らかの歪みが明らかになるかも知れません。

年明けを暗い話でスタートして申し訳ありません。良い会社を作るのは長い年月を要しますが、経営者・社員さんの判断ミスや安易な考え・油断で一瞬で会社はなくなります。

信頼関係

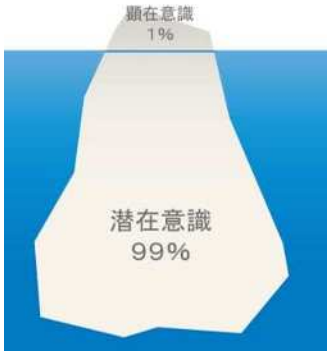
「“信頼関係”があれば、ウソがホントになり、ホントがウソになる」とのプロローグで本書**『なぜ、占い師は信用されるのか？（石井裕之著、フォレスト出版）』**が始まります。



筆者は、「ビジネスでもプライベートでも、相手を理屈で説得するよりも、相手の**潜在意識**に好印象を与える方が圧倒的に効果的」と言います。

「安ければ売れる」、当たり前です。「カッコいいからもてる」、これも当たり前です。でもそういった**顕在意識**（自覚・認識できる意識）レベルの魅力は長続きしないそうです。

相手の潜在意識に好印象を与える、潜在意識を味方につける事が重要と言います。それが出来れば「高くてもアンタから買いたい」、「あの人と一緒にいたい」と人は思ってくれるようです。



一方、経営者・社員が清潔感のない服装で日常業務を行い、玄関前にゴミがいつまでも落ちているような会社では悪い印象を潜在意識に定着させそ

佐藤寿志税理士事務所　006-0023　札幌市手稲区手稲本町３条１丁目１番１号
TEL（011）699-5925

うですね。経営者は細心の注意を払いましょう‥。

悩み

占い師は、お悩み相談を生業としています。人間の悩みは「4つのカテゴリー」しかないと筆者は断言しています。

具体的には①人間関係、②お金、③夢（目標）、④健康です。占い師にとっては相談者がそのカテゴリーの中のどれを悩んでいるのかを見抜けば対応が容易になります。

たとえば「仕事の悩み」で相談者が来たとします。多くの場合、①お金（給料・貯金）、②人間関係（上司 or 部下）、③夢（目標・やりがい）のいずれかに該当します。場合によっては、④健康上の理由で仕事を継続できないという事かも知れません。

占い師は相談者の真の悩みの核心を探し求め相手との「信頼関係」を構築しようと努力します。それを突き止めたら、相談者の「潜在意識」に好感度を与えるためのアドバイスや共感・共鳴をします。その結果、占い師は相談者から信頼を受け料金を頂きます。

ソリューション

最近の銀行はお金を貸すだけでは商売として成り立ちません。そこでソリューション（コンサル）部門への人員を増加（子会社含む）させています。ソリューション、つまり「各企業が潜在的に抱える問題や解決すべき課題」を把握し、銀行のネットワークを使い改善策を商品として提供しているのです。

実際、当事務所でも道内数行とメガバンクがお客様に提供したプランを検討しています。何か‥コンサルと占い師、共通点が多そうですね‥。

人間の悩みを会社に当てはめると、①経営者と社員、社員同士の関係、②お金（資金繰り）、③夢（目標・会社の未来）、④健康（財務体質、社員の年齢分布）と意外に相関性が高くなります。

冒頭のニュースで油断や注意不足によって起こった事故によって企業が危機に陥っている実例を紹介しました。企業を変える決断をできるのはトップ（経営者）だけです。銀行に高い手数料を払わなくても企業の体質改善は出来ます。

表面化していない「潜在的に存在する問題点」を社員さんと洗い直しをして下さい。緊急事態とならないよう、定期的な保守・点検で会社の事故を未然に防ぎましょう。

勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし

（スポーツや武道などの勝負の世界で用いられる格言）

編集後記：

「ハインリッヒの法則」とはいうものがあります。これは、労働災害の分野でよく知られており事故の発生についての経験則です。1件の重大事故の背後には、重大事故に至らなかった29件の軽微な事故が隠れており、さらにその背後には事故寸前だった300件の異常、いわゆるヒヤリハット（ヒヤリとしたりハッとしたりする危険な状態）が隠れているというものです。「1：29：300の法則」とも呼ばれています。一つの事故が、会社の存続を脅かします。一年間、安心・安全な経営を目指しましょう（寿）。

佐藤寿志税理士事務所　006-0023　札幌市手稲区手稲本町３条１丁目１番１号　TEL(011)699-5925